

演題名	特別養護老人ホームにおける個別支援実践時間の確保		
施設名	ケアポート板橋	(ふりがな) 発表者(職種)	にしかわ まこと 西川 真人 (介護士)
(ふりがな) チーム名	あわーちーむ Ourteam		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取組種別	施策実行型		
改善しようとした 問題課題	昨年度のTQM活動発表セミナーにおいて、各フロアより1名ずつのご利用者を選出し課題・対策を実施するも、個別ケースの症例発表という形となってしまった。一定の成果と根拠を出すことはできたが、全ご利用者に対し均等に支援することが望ましい。多忙な業務の中、如何に個別支援の時間を捻出し、均等に「輝きの一瞬」を提供するためにはどのような方法があるのか、チームで検討しこの課題をクリアしていく。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 特養全ご利用者に対し、個別支援実施を (目標値) 現状の倍の件数を提供できる様にする		
実施した対策	【実施対策】 ・『1日5分』と題し、業務として「個別支援」を取り入れる 【対策背景】 ・本来、介護職・支援職は、「ご利用者とゆっくり関わりたい」「生活に潤いの時間を提供したい」などの気持ちを常に持っている。 ・少数の職員にて多くのご利用者に対応している為、ゆっくりと関わる時間をとることが難しい。 ・周りの職員が忙しそうに動いていると、自分だけゆっくり時間を取ることはできないという気持ちが生まれる。		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 対策実施前 【R6.4/10(水)～5/10(金)】 実施78人 (実施後) 対策実施後 【R6.5/15(水)～6/14(金)】 実施200人		
歯止めと 標準化	業務内に「1日5分行ってきます」等の声が習慣化、当たり前実践できる様にするため、 ・朝礼時、引継ぎ時に、今日はどうのご利用者に対し、何を実施したいのかを提案できる様にする。 ・新入職職員となると、なかなか自分から言い出せない場面もある為、実施できているかの声掛けをお互いにできる様にする。 ・記録を効率化する為に写真を撮るのみとしているが、定着化してくれば一言加筆していく。		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 西川 真人 介護士 2 小西 誠之 介護士 3 新堀 成江 看護師 4 中原 弘二 介護士 5 荒川 春香 生活相談員 6 千森 まゆみ 介護支援専門員 7 三浦 ルミ 管理栄養士 8 小野 未鈴 管理栄養士 9 黒羽 絵里 作業療法士 10 特養全職員 介護士・看護師
活動の場 ※複数選択可	②支援部門		
活動期間	令和5年6月1日 ～ 令和6年6月30日		
リーダー名 (職種)	小西 誠之 (介護士)		
活動回数	12		回

【テーマの選定】

- ・ご利用者の日常生活の中で、「幸せホルモン」を如何に分泌して頂ける様な支援を行うことができるのかをブレインストーミングで挙げ、優先順位を基にテーマを決定。
「個別支援時間の確保」となる。

評価点	ウエイト		施設理念	評価項目 取り組みたいテーマ	ウエイト付け					評価点	総合点
	CSの向上				改善の要求度			解決可能			
	業務改善の向上	サービスの向上			利用者ニーズ	部門目標	緊急度	重要度	期間内終了		
6	○	○	個別支援時間の確保	◎	◎	◎	◎	○	○	46	50
2	△	△	個々に合わせたフロアの有効利用	◎	○	△	◎	○	△	32	34
2	△	△	余暇活動の充実	△	◎	○	○	○	△	28	30
4	△	○	認知症ケア評価	◎	◎	◎	◎	△	△	42	46
4	○	△	日中活動の見直し	△	○	○	◎	○	△	28	32
2	△	△	職務の作成	○	△	△	△	△	△	14	16
4	△	○	新人育成教育	◎	◎	◎	◎	△	△	42	46

◎ 5点 ○ 3点 △ 1点

決定!

【目標設定】

- ・個別支援時間の捻出が難しいことから、その実施時間を確保し、令和6年6月末日までに現状把握期間と同期間の対策実施検証を行い、その件数を倍にすると目標設定。

GOAL SETTING | ③ 目標設定

何を... 個別支援実施を

いつまでに... 令和6年6月末日までに

どうする... 実施回数を倍増させる

根拠...

- ・現時点においても、個別支援は実施しているが明確に記録への落とし込み・数値化できていない
- ・今回の活動にて数値化し、対策実施にて倍の効果は見込めるのではないかと推測する為



【現状の把握と対策の狙いどころ】

- ・全フロア個別支援経過記録より、個人対応している支援は40件/月であり、提供しているご利用者に片寄が見受けられた。

【対策の立案と実施】

- ・全フロア共通として、介護職員が出勤時に、業務時間(8時間)の中で、5分間個別支援を実施し、「輝きの一瞬」を共に過ごしながら、写真を1枚撮影することとする。

Implementation of countermeasures | ⑥ 対策の実施

【特養2階】『1日5分』取り組み状況



★対策実施前 実施職員3名・ご利用者延べ13名 ⇨ 実施職員64名・ご利用者延べ85名

【効果の確認】

Implementation of countermeasures

⑦ 効果の確認



◆ 個別支援 実施頻度差 (R6.4.11~5.10 : 5/16~6/15)

		対策実施前	対策実施後	増加件数	増加率
特養 2階	実施職員数	3	64	61件	21.3%
	提供ご利用者数	13	85	72件	6.5%
特養 3階	対策実施前	16	22	6件	1.3%
	対策実施後	29	45	16件	1.6%
特養 4階	対策実施前	12	52	40件	4.3%
	対策実施後	20	62	42件	3.1%
特養 5階	対策実施前	9	69	60件	7.6%
	対策実施後	16	80	64件	5%

★4フロア合計延べ職員167回・提供ご利用者延べ194名の個別支援提供に繋がる

【標準化と管理の定着】

Standardization and management

⑧ 標準化と管理の定着

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どのように
標準化	幸せホルモンへの実施取り組み (①リズム体操②日照③複式呼吸)を	定期的に行い効果を出すために	関係部署職員がチームで	サービス提供時間帯	各フロアで	毎日実施する
教育	幸せホルモンの種類と効果、根拠を	理解して生活に活かすために	フロア職員が	サービス提供時間帯	各フロアで	実施し記録(写真・コメント)を残す
管理	『1日5分』活動を	定期的の実施できるように	フロア職員が	ケース会議実施時	会議内で	進捗の確認をする



【反省と今後の進め方】

4フロアにおける介護職員は1日18名であり(入浴担当者・夜勤者除く)、30日勤務であれば、単純計算月540件の個別支援(1日5分)ができるはずである。200件/月と取り組み前に比べ大幅な件数の増はあったものの、100%達成の半分にも及ばない結果となった。

実施できなかった原因を抽出すべくPDCAサイクルを回し、ご利用者に満遍なく、且つ輝きの一瞬を習慣的に提供できる様に対応継続を行っていく。

